

北海道医療新聞に当院の PRP療法が掲載されました！

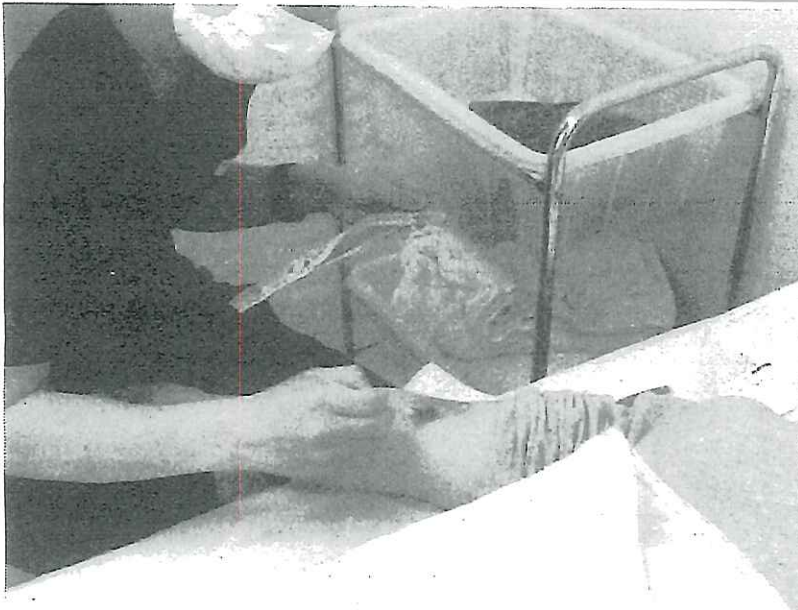
2023.3.20

北海道医療新聞

PRP療法の有効性調査

治療の選択肢として積極的に提案

羊ヶ丘



採血や遠心分離など外来看護師が担当

厚別区の羊ヶ丘病院に、治療による疼痛の変
(岡村健司理事長、倉秀 化や思いを調査。有意差
治院長・68床)は、変形 はないが治療前後で痛み
性膝関節症などに対し は減少しており、患者の
て、再生医療の自家多 8割近くが治療に効果が
血小板血漿(PRP)療 あったと回答。結果を受
法を受けている外来患者 けて、治療の選択肢の1

つとして積極的な提案を
展開している。

同療法は、患者の血液
から組織の再生に関連す
る成分を抽出し、疾患部
位に注射することで、抗
炎症作用によって疼痛の
軽減を促す再生医療。同
病院は2021年から外
来にて変形性膝関節症
の患者に対し実施してい
る。

採血を行い遠心分離
後、疾患部位に戻すとい
う一連の流れは看護師が
担当。関節内注射を4週
の間隔を空けて全3回行
っている。

同疾患の患者9人を対
象に、3回の各注射前後
でVASを用いて痛みの
変化を調査。平均は初回

が注射前の4・0から注
射後は3・1に、2回目
が3・5から3・8、3
回目3・4から3・1
となり、有意差は見られ
なかったが、回数を重ね
るごとに減っていること
がわかった。

全3回の治療終了後、
患者に効果を聞いたとこ
ろ、7人が「畑仕事で楽
になった」「足が軽くな
った」など治療の有効性
を訴えた。

一方、2人は「痛みに
変化なし」「痛みが悪化

またカルテから診察を
担当した医師の所見と照
らし合わせたところ、有
効と答えた7人は改善
残りの2人は不変という
結果で一致を示した。

今回の検証結果を受け
て、特に仕事の都合で入
院期間が作れない、気持

杉澤看護師は「患者か
らの痛みに対する細やか
なヒアリングなどで、不
安や悩みを受け止めるケ
ア、治療選択を医師と共
に支援したい」と力を込
める。